

こんにちは教育委員です



発行：教育委員の会
〒049-4393　今金町字今金48－1
TEL:0137-82-3488【No.46】H19.11.28
E－mail:mitsuhiro.nakajima@town.imakane.lg.jp

ふるさと給食試食会開催

～今金男爵使用「ピザ風ポテト」～

１１月１日、今金小学校で地場産物を活用した料理を給食の献立に取り入れ、地産地消や地域の食文化への理解を深めるため、今金男爵と今金産タマネギを使用した「ピザ風ポテト」の特別メニューによる試食会が行われました。



各教室では、教育委員、学校給食食育推進委員、給食センター職員（栄養士、調理員等）などが児童達と一緒に試食しました。子ども達の評判も好評で、試食後に行われた懇談会では、給食全般にわたる貴重な意見や提言があり、今後の食育の推進に役立てることにしています。また、この事業は、本年度制定した今金町教育週間（１０月２５日～１１月８日）の協賛事業のひとつです。



委員寄稿「歳時記」



今月は、田中委員の「食・農」通信の最終号です。

田中委員の「食・農」通信

～稲作の一年～　＝No.8＝

１１月前半やや穏やかな気候でしたが、１９日、今冬初の真冬日と暴風雪波浪警報。いよいよ冬将軍の到来です。１０月後半から１１月、町内水田の所々でパワーショベルやトレンチャー（溝堀機）による暗渠排水工事が見受けられます。この地のみならず、北海道の稲作は、「土地改良」と「品種改良」と「技術改善（機械化含む）」の歴史だと思います。

土地改良は用水路、排水路の整備、区画整備、客土工事（良質の土壌を運搬し置土する）、暗渠工事（土地の透水性、排水性を良くするために７～１０m間隔、深さ７０～９０cmに溝を掘り、吸水集水の管を埋設する）などです。

品種改良は、始めは北国でも生育する品種、次に多収穫を望める品種、現在は、より良食味の品種の育成を目指してきました。北海道米は、やっかいどう米と言われていた時期がありましたが、現在の主要品種「きらら３９７、ほしのゆめ、ななつぼし」は府県産米と同等の評価を得られる様になりましたし、新しい品種「おぼろづき、ふっくりんこ」などは一層の評価が期待されます。



技術改善は、初期の生育を良くする事が第一でした。湛水直播から始まり、水苗代、畑苗代そして機械移植へと、技術と機械化が相まって進歩してきました。化学肥料と農薬の利用も収量の増大安定化と省力化に大きく寄与して来ましたが、今後は環境等への配慮が必要となっています。

今日の稲作があるのは、農業者をはじめ、試験研究者、関係各機関、それぞれの立場での永年に亘るたゆまぬ努力によるものと思います。北海道の米の生産量は約６５万トン、全国のおおよそ７～８％で毎年新潟県と１位２位を競っています。今金町は北海道の約１％強の生産量です。

私の住まいは田代稲穂地区ですが、稲作に期待を込めて名づけられたと思います。また、本町稲作の草創期に稲の試作に取り組んだ梅木安蔵氏、大正時代に後志利別川左岸の幹線用水路開削に奔走した藤倉久三郎氏、昭和初期に品種改良に情熱を懸け「万太郎米」を育種した佐藤万太郎氏はこの地区の先人達です。開墾の歴史や先人のご労苦を次代に伝えたいものです。



農業全体の事や稲作の実情についても少し触れたいのですが、別な機会にさせて頂きます。４月から～稲作の一年～として紙面を使わせて頂き、ありがとうございました。不十分な所が多かったと思いますが、多少なりともコメニケーションが図られたのかなと感じて居ります。